

平成28年度の学校評価

<p>本年度の重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全校生徒の学力向上 2. 授業改革と教員の授業力向上 3. キャリア教育の推進 4. 基本的生活習慣の確立 5. 部活動の活性化と強化及び安全管理と事故防止 6. 校内環境の整備 7. 地域との連携・交流の推進 8. 生徒・保護者との信頼関係構築 			
担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
教務	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上 ・授業改善の取り組み ・業務の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力指導の実施 実力試験の有効活用 学習習慣の定着 研究授業、授業アンケートの実施 保護者対象公開授業の実施 校内研修の実施 教科会の活性化 教務内規等の検討・策定 手引等文書類の充実 	<ul style="list-style-type: none"> A A B B A A C B B 	<p>校内にて、タブレット、電子黒板の利用について研修を行った。家庭での学習習慣は、日々の宿題課題や長期休業中における全教科の宿題課題を実施しているが、定着には至っていない。教科会単独での活動は活性化しているが、横のつながりを持ち組織だった活動とすることが、課題である。</p>
情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ・学内コンピュータネットワークの運営・保守・管理を行う ・情報機器の活用のためのガイドライン・マニュアルの整備を行う ・既存のシステムの活用および更新の検討を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークの保守・管理 サーバ類の保守・管理 情報機器の保守・管理 各種ガイドライン、マニュアルの作成、整備 一斉配信メールの活用 ホームページの活用 新規システムの検討・更新 	<ul style="list-style-type: none"> A B A B A A A 	<p>今年度よりタブレット・電子黒板での授業を行い、バックアップや機器の整理や整備を行った。今後はより使いやすくするため、アプリケーションのインストール等を検討していく。また、職員室内のデスクトップPCをネットワークの快適化を図りノートPCに入れ替えをした。また、行事の際配信メールの活用や、ホームページを随時更新を行った。</p>
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全で豊かな学校教育環境の整備 ・経費節減の啓発および具体的な実施 ・災害対策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい校舎利用の啓蒙・啓発 施設・設備の管理・営繕 環境美化の促進 計画的な備品・消耗品の調達 経費節減（省エネ・節約） 次年度行事予定の見直し・調整 避難訓練の計画・実施 耐震・改修の促進 	<ul style="list-style-type: none"> B B A C C B A A 	<p>年間を通して大掃除の機会を多く持ち、生徒の取り組み方も向上が見られることから、全体的には美化に対する意識の高まりが感じられるようになった。今後は部分的に汚れ易い箇所の清掃を徹底していくことが必要である。また、施設については改修・修繕を繰り返しているもので、中・長期的な計画が必要であると思われる。備品や消耗品に関しては計画的な補充・調達が不十分であったが、職員の意識を高めることによって経費の削減にもつながるので、啓蒙・啓発が不可欠となる。避難訓練の重要性は言うまでもないが、身近な問題として危機意識を持てるよう、実践的な指導の継続を目指していくことが課題となる。</p>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科総合進学コース、普通科福祉コース、普通科スポーツアクトコース、情報ビジネス科、それぞれの特性を生かし生徒一人一人の進路希望の実現を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に適した進路ガイダンスの実施 各学年一人当たりの担任による複数回の個人面談の実施 『進路の手引き』など内部・外部の情報誌を有効活用 保護者対象進路説明会や保護者会などで家庭への進路情報の提供 職業観を高めるためのインターンシップの実施 進路を考える材料としての適性診断の実施 大学入試改革に向けての対策を推進 	<ul style="list-style-type: none"> A A B B A A B 	<p>各先生方が様々な場面で生徒と会話して頂いており、生徒の進路への取り組みが少しずつではあるが早い時期から熱心に考え出しているのを実感できる。保護者様に現在の進路を取り巻く状況をもっと知って頂く必要を感じるので、今後も本校にあった進路指導を常に探りながら、対応していく必要がある。</p>
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の円滑な運用および主体的参加者の増加 ・生徒会活動と各委員会の活性化 ・部活の活性化 ・ボランティア活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主役になれる学校を目指し、各行事の計画的運用を図る 各行事で活躍する委員会の拡大と学校行事への定着を図り、より多くの生徒が学校行事に積極的に参加することを目指す 生徒会を中心とした、生徒による自治組織を目指す 生徒会新聞の発行、生徒会研修生の募集および育成 生徒会の収入と支出のバランスを整え、部活動への予算投入と、持続可能な予算計画を立てる 地域の催し（できな祭・こどものまち等）への参加 ボランティア紹介および申請の指導 校外美化清掃および募金活動の計画実行 	<ul style="list-style-type: none"> A B C B A A A A 	<p>在校生の生徒会への関心不足、責任やプレッシャーからの逃避など、中心となる生徒会役員の立候補人員不足に直面した1年であった。その中でも、学校行事が運営できたことは、生徒会の先生方や様々な先生方の協力のおかげである。生徒自身の手で生徒会・学校行事を動かしていくためにも継続して生徒会活動のできる生徒の育成が急務である。行事への生徒の参加は積極的になり、各行事の質は上がってきているが、自己満足で終わっている部分が多い。内容をもっと検討し、中身の濃いものにしていきたい。各委員会を機能させるために今一度、組織整理の必要性を感じた。ボランティア活動、校外美化清掃、募金活動は計画に運営出来、定着がみられた。次年度より、校外美化清掃は褒賞無しで運営していく予定。</p>

担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
生活指導	・高校生としての自覚をもち、校則を中心とした規範意識を身に付けさせる ・教職員一人一人が厳しさと、愛情を基礎に信頼される生徒指導を行う	法律・校則の遵守（規範意識の向上）	B	規範意識の向上に向け、先生方により細かく指導していただけるようになってきた結果、特別指導にかかる生徒の数が大きく減少した。制服の乱れについても校内では随分と改善されているように思う。毎朝交差点指導に協力いただいた結果、交通マナー等もよくなり、マナーの悪さに関する苦情も少なくなってきた。携帯・スマホの提出は先生方にかかりの手間をかけているが、その結果、授業中や学校内での携帯・スマホに関わるトラブルは現状ほとんどなくなってきた。遅刻は以前より減ったとはいえ、まだまだ満足のできる状況とは言えない。来年度は更なる指導の質的向上をはかり、教職員全体で生徒に毅然と対応していけるようにしたい。携帯・スマホを用いての個人情報の流出、および誹謗中傷の書き込み、不適切な画像・動画のアップロードなどが、いじめや大きな事件に関係する機会が多いことを機会を設けて何度も伝えることでSNSの適切な利用について啓発していきたい。遅刻に関しては同じ生徒が指導をしているにも関わらず、改善されないのその部分をどうするか考えたい。
		制服の正しい着用など身だしなみ指導	B	
	・個々が社会の一員であることを認識させる	教職員の指導に関する意識統一	B	
		挨拶の励行・節度ある言動の実践	A	
	・SNSの正しい利用に関して啓発を行い、トラブル	交通マナー・社会的モラルに関する意識向上	B	
		携帯電話・スマートフォンは、朝のST時必ず担任に提出させ、校内における使用を厳禁とする	A	
		L I N E ・ twitterなどを使用し、個人情報流出させることで犯罪被害者にも加害者にもなる可能性があることを理解させる	A	
・遅刻者に対する指導を徹底し、遅刻者の減少に努める	家庭とも連携しながら、時間厳守の意識を高めさせる	C		
健康管理	・日常の健康観察	保健室の利用状況の把握	A	来室した生徒の人数や、症状を保健日誌に記入し、生徒がどのような理由で利用することが多いか、どの時期に集中するのか把握することができた。利用状況をもとに保健室の在り方を見直していきたい。カウンセラーと情報を共有することが少なかったため、今後は連携を図りたい。
		カウンセラーの活用	B	
渉外	・募集定員の入学者数確保 ・学校紹介リーフレットおよび学校案内パンフレットの充実（本校の認知度を高める） ・体験会・説明会の充実	各学科・コースの入学者数増加および受験者数増加	A	秋の体験会以外の行事では、昨年度より参加者人数は上回った。また、推薦一般とも受験者数が若干数ではあるが増加することができた。しかし、募集定員確保は厳しいため、今後は近隣協力校を中心に行事参加者数と推薦受験者数の増加と学科・コースや教育内容のPR活動が必要である。
		認知度を高めるための学校紹介リーフレットと学校案内パンフレットの充実および活用（各学科・コースのPRの強化）	A	
		体験会・説明会等の行事への参加者数増加	A	
いじめ防止対策	・日常の観察	問題を感じたら、学年主任へ報告	B	問題発生時の備えは十分にできているが、SNSでの問題発生が多くみられるようになってきている昨今、その発見が難しくなっているため、教員は意識をし、アンテナを高く持って日常の観察をしなければならない。全体へのアンケート実施や個別対応はできているが、回数を増やすことでより早い段階での対応することが、今後の課題である。
		学年で問題を精査し、必要であれば、いじめ防止対策委員会へ報告	A	
	・問題の緊急性に関する対応	激しい誹謗中傷、暴力など早急な対応が求められる事案に関しては、迅速にいじめ防止対策委員会を招集し、対応を協議	A	
		問題の全貌を知るためにアンケートやクレペリン等を実施したり、スクールカウンセラーとのカウンセリング活用で被害者、加害者共、心のケアにつとめる	A	
事務	・サービス部門と位置づけ、内部・外部に対しサービス精神をもって業務に取り組む	電話・来客対応を通して学校のイメージ向上の貢献	A	組織として、個々のモラルも高くチームワークも十分機能していると自負しているが、項目によっては学園全体として取り組まなければならない問題もある。
		内外に対する親切で行き届いた対応	A	
	・事務室と職員室との連携と相互協力	確実な情報伝達（ハウ・レン・ソウ）をモットーに、組織のスムーズな運営への寄与	A	
		就学支援金・授業料軽減等の対象生徒の申請100%達成	A	
	・公的補助金の獲得の最大化	補助金制度に精通し的確な申請にて取り零しを防ぐ	B	
		学園全体の制約の中で、十分に学校経営に応える予算立案・運用	A	
・予算管理における的確性	校費・PTA・後援会・同窓会等の申請・出納・実績管理の標準化・効率化	B		
・出納業務の標準化・効率化				

【評価基準】 目標の達成率 A：80%以上 B：60%～79% C：40%～59% D：40%未満